

## 鈴鹿山系の奥座敷を訪ねて

武平峠からイブネ・雨乞岳を巡る

平成30年5月20日(日) 晴れ

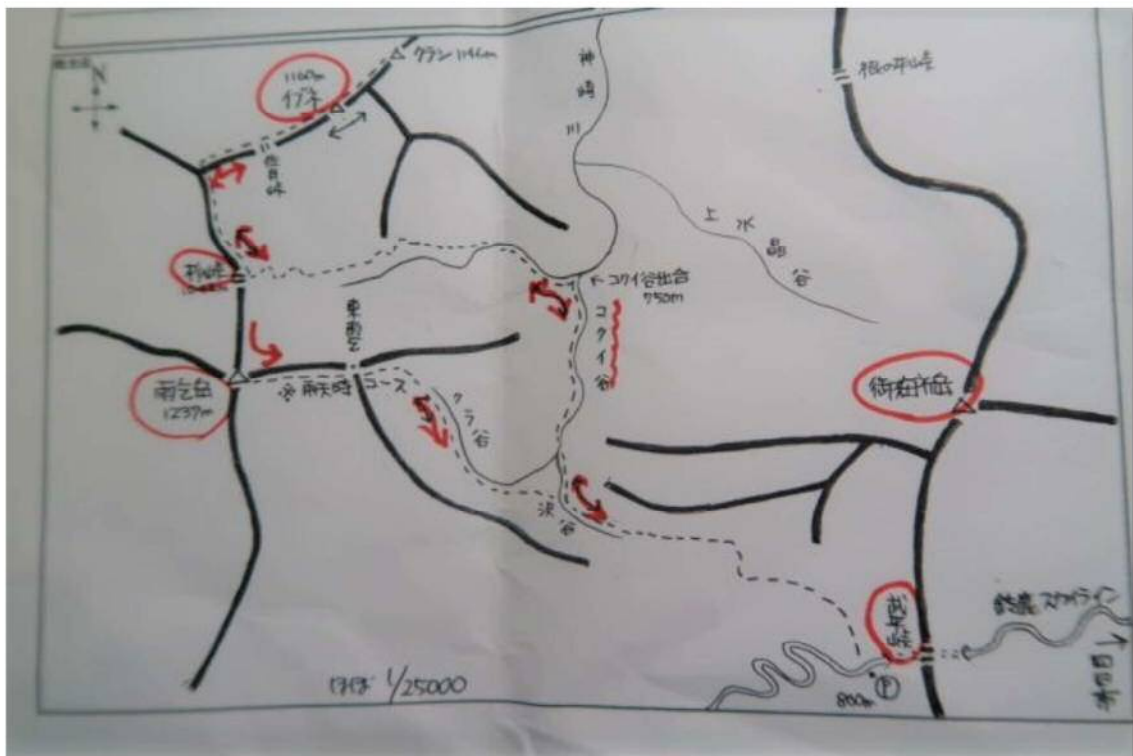
メンバー： L磯部S、SL石津、ヤマメ、ハンブルクの星、  
やまたくお、太田、Y田、非1名、磯部N(記)

「誰もが参加できるよう、①ゆるく、味わいのある山を、②早めに計画発表する」ことを目的とした チームサントワ(山永遠)の初企画で、鈴鹿の主脈から離れ、静けさと開放感から最近人気のある、イブネ周辺を歩いた。

夜立ち組4人と日帰り組5人の総勢9名が、武平峠の滋賀県側の駐車場(仮眠)に朝集合。5時前から車は増え始め、6時にはほぼ満車。近くの駐車場にも次々と車がやってくる。ここは御在所や鎌ヶ岳へのメジャーな登山口でもある。

この時期にはめずらしく気温が低く、夜は5~7度と冷えた。出発時も寒くてヤッケを着て歩き出したが、もっけの幸いで、1日快適に歩くことができた。

今回のコースは、スタート地点の標高は800m→最低地点750m→イブネ1160m→雨乞岳1237mと、長く続く急登、急下降は無く、筋肉や足腰への負担は少ない。ただ”ゆるい”という点では9時間半行動となり、写真や休憩タイムをたっぷり取ったといえ、次回企画への反省点である。



概念図

周遊したコースは沢谷・コクイ谷・クラ谷と沢沿いの道が続く。コクイ谷は一般登山道ではないが、問題ない。渡渉を繰り返すため増水時には注意が必要だ。



沢沿いに咲くヤマツツジ

透き通って輝く新緑、野山の花々、爽やかな青空、小鳥のさえずり、小川のせせらぎ、かえるのゲコゲコ、へびのよろよろ、などなど多彩な自然に包まれながら、癒される山行となった（幸いヒルはヒル寝中）。



## コクイ谷出合の渡渉風景

天気も良く、涼しいので快適に歩く。鈴鹿の沢は雑木の中を縫うように流れ、水も透明度が高くきれいで、明るいイメージだ。例年より、水量が多いらしい。十数回ほど渡渉を繰り返して進むので時間がかかる。



## コクイ谷を離れて杉峠をめざす

コクイ谷出合からは雑木の中の緩やかな上りが始まる。この道は千種（ちくさ）街道と呼ばれ、かつては 近江と三河、伊勢をつなぐ重要な道だった。途中に鉱山跡や学校の石垣も残っている。



杉峠直下で、枯れた一本杉の写真を撮るメンバー

樹林を抜けると青空と、杉峠のシンボル「一本杉」が現れた。峠から、いよいよイブネへのプロムナードコースが始まる。



シロヤシオのトンネル

峠からイブネまではなだらかな下りと上りを繰り返していく。今年は当たり年だというシロヤシオの木々がトンネルとなって続くので、歓声を上げながら何枚も写真を撮った。



## シャクナゲの残り花

シロヤシオだけでなく、シャクナゲやサラサドウダンなど花の木が多いコースだ。



佐目峠付近の登山道、開放的で気持ちいい



苔の絨毯に覆われた、台地状のイブネ

だだっ広い雰囲気の良いイブネ山頂は 360 度の大展望。伊勢湾から名古屋のビル群、片や琵琶湖から伊吹山 まで、見飽きない景色が眼下に広がる。

・・・それぞれが思いのままに過ごす、至福の時間。風も優しく、昼寝がしたいねと話す。



とんがり帽子の鎌ヶ岳と御在所をバックに記念撮影



まさに「日本庭園」・・・ ヤマツツジと馬酔木

イブネでまったりとして、クラシはあきらめ杉峠へ戻って、雨乞岳をめざす。峠からの上りは急登で足場が悪く、崩れやすい土壌で疲れた。100M程を一気に登るとようやくなだらかになり、雨乞まで気持ちの良いササの道が続いた。



雨乞岳から東雨乞岳へと道が続く

琵琶湖を眺めたり、御池岳のテーブルランドを確認したり、稜線歩きを楽しんで、雨乞岳に着く。ここからは東雨乞岳まで伸びやかな、ひざ丈以上の笹原が続き、いよいよ鈴鹿の稜線歩きも最後だ。

下りのクラ谷はなだらかな沢沿いの道で、下山道としては楽しく歩きやすかった。

のんびり、ゆったり山行だという誘い文句に引かれて参加した会員からは、「ちょっと長くない？」という声も上がったが、山奥に入ったという実感の得られる、良いコースだね、ということで落ち着いた。

<タイム>武平峠（6:50）ーコクイ谷出合（7:58）ー杉峠（10:45-11:05）ーイブネ（11:50-12:30）ー雨乞岳（13:50）ー武平峠（16:30）